

令和6年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立御殿場特別支援学校 P T A					
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	156人				

1. 使用状況

寄贈物品名	抱っこスピーカーHugMe
使用学年及び人数	主に小学部、中学部の肢体重複課程の児童生徒
使用頻度	月に4、5回
使用状況	<p>主に小学部の肢体不自由クラスで貸し出しが行われており、自立活動や音楽、休み時間などで使用されている。児童生徒の実態に合わせて横向き、うつ伏せ、座位、立位など、さまざまな姿勢で活用されている。児童生徒のiPadとスイッチにスピーカーを繋げて使用することで、自分で好きな曲を流すことができ、楽しみながら活動に取り組むことができている。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>普通のスピーカーとは異なり、安心感のある素材で作られているため、児童生徒は自分に合った姿勢で音やわずかな振動を感じながら楽しむことができている。さらに、音楽を流すとスピーカーの向きを変えながら音源を探す様子が見られる。本製品は音源が集中している構造であるため、音の出所を探す活動を通して児童生徒の主体性を引き出す効果があると感じた。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>本製品は、児童生徒が好きな姿勢で柔らかい素材を抱きしめることで安心感を得ながら、音楽やわずかな振動を体感でき、情緒の安定にもつながると考えられる。また、音源が集中している構造を活かし、音の出所を探す活動を取り入れることで、主体的な探索行動を促すことができた。今後は、音楽に合わせて動く活動や複数音源を使った活動を取り入れ、学びの幅を広げていきたい。</p>
その他希望や所感など	<p>スピーカーに繋ぐ線が見えないようなカバーがあると安全に使用できると感じた。また、小さな振動を感じるのが難しい児童生徒もいるため、振動の強弱を調整できる機能があれば、使用の幅がさらに広がると感じた。</p>

2. 活用の様子



生徒の得意な姿勢で使用した。
音楽が流れると楽しくて笑顔
になった。

スピーカーから曲が流れるとリラッ
クスした表情になり、落ち着いた様
子で過ごすことができた。



聴覚障害を併せ有する児童が、
自分の力でスピーカーの向きを変
え、音が出てくる場所を探し、音
が聴こえることに気づき、耳を澄まし
て聴こうとした。また、両手で抱き
しめ、かすかな振動を感じている
様子も見られた。近くにいる児童
も音に気づき、見つめていた。

2人で関わり合いながら使用した。
音が出てくる場所に耳をつけたり、
好きな曲が流れると、抱えて跳び
はねたりする様子が見られた。

